



感動あふれる「ゆめ半島千葉国体」と

千葉大会が閉幕



9月25日から11日間にわたり各地で熱戦が展開された第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」と、10月23日から3日間の日程で開催された第10回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」が感動のうちに閉幕しました。



本町では期間中、バレーボール競技少年女子種目とバレーボール競技聴覚障害の部を開催し、連日予想を上回る来場者で競技会場はにぎわいを見せました。

会場では、多くの選手や監督の皆さんから感謝の言葉をいただきました。

ひとつは、分け隔てのない小学生からの温かい大声援。「これほどの観衆の中での試合は初めてです」と感謝とともにお礼の言葉をいただきました。もうひとつは、心のこもった手作りプレゼント品や休憩所でのイワシのつみれ汁等でおもてなしへの感謝でした。大網白里町の食文化を通じて、たくさんの町民と語り、触れ合えたことが、選手や監督はもとより、わたしたち大網白里町民にとっても大きな喜びとなりました。

最後に、競技会場の運営を支えてくださいましたボランティアの皆さん、バレーボール協会の皆さん、町内幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校の児童生徒の皆さん、大会関係者の皆さんに心から感謝を申し上げます。

ゆめ半島千葉国体・千葉大会大網白里町実行委員会長 堀内 慶三

瑞穂小5年生が稲刈り体験

瑞穂小学校の5年生が体験農業を行っている「チャレンジ水田」が9月14日、収穫の



指導を受ける瑞穂小児童

時を迎えました。

8月の猛暑にも負けずに育ち実った稲の刈り取り作業を119人が手分けをして実施。大粒の汗を流しながら1時間あまり、体験しました。

作業前に暑いと嘆いていた女の子も「作業の間は暑さを忘れられたの。すごく楽しかった」と笑顔で話してくれました。

また、瑞穂環境保全会代表の岩瀬貞一会長は「食べる物すべてに農家の苦労があるので、大切に食べてほしい」と語っていました。

いま自分ができることを 著名人から学ぶ

著名人を月1回招いて、講演を通じて学び取り組むことを目的とする「ねっと99夢フオーラム」が9月11日に「今の日本の現状」をテーマとして行われ、約80人が参加しました。

この日で41回目となる講演

の講師は、起業家などの多くの顔を持つ加藤秀視氏。加藤氏は「人は常に他人事のように感じている。また、人は人間関係などいつもいろいろな問題に直面している。他人の痛みは自分の痛みであり、みんなつながり役割がある。これからの社会を担う日本の若者たちに、本当に大切なものを探し出し、目に見えないものを大切にしてほしい」と思いとともに、これまで加藤氏が体験したことを通して語られました。



若者へのメッセージを語る 加藤氏

また、世話人の野老真理子さんは「自分でやれる事は自分でやることを目指し、99回の講演を目標としている。ひとつでも良いので、すぐにも取り組めることを吸収してほしい」と語っていました。